

金沢

かわら版

7

尾張町しにせ通りで

ただいま奥より持ってまいりま
すので、少々お待ち下さい。お
い、お茶を差し上げやう

なんて応対をさせられたんで
は、ひやかしも何も出来ない。
それまでの仕方にとかわら
ず、古着でも何でも最初から店
先に掛けて出したから、「掛け
造り」とも言い出したとか。

これだと外から店内が見える
し、お金が無くても、店員に気
兼ねすることなくひやかせる。
今では当たり前風のウインドーシ
ョッピングのはしりみたいなの
の。

庶民の町としての「懸造り橋
場町」は、芝居小屋や大道芸人
も集まり、一大歓楽地のような
ったという。

江戸も中期を過ぎると、一般
の武士もいつしか交じりだす。
参勤交代の行列に替って行くため
の衣装を買ったり、借りたり
と。歴史の「ミヤ」としての風俗
確保が、「懸造り」の由来から
呼かひ上がる。

(石野 瑠一「尾張町若干巻」)

懸造り

金沢は浅野川と犀川の恵みによ
って栄えた町。かつて犀川は
犀川といわれるほどに氾濫
(はんらん)し、浅野川は船々川
とか女川といわれるほど静かた
ったという。

懸で物を運ぶより、
海の方が多く通べる時
代。日本海を渡る北前
船は木造船の大船の、
海水に潜む船食い虫が
いない港を選ぶ。そこ
はいつしか真水の流れ
出る、あまり花盛しない浅野川
の河口となる。

川船に荷を積み替えて、もつ
と川を上り、小立野台地が岸さ
りて平地になる所に至る。

人が集まり、市がたち、やが
て人を接待する女性も集まって
茶屋街が出来たのか。尾張町の
繁栄が、さらに昇殿(かいは
い)を懸(にぎ)やかにさせて
いったのかも知れない。これに
あやかって、橋場町も「懸造り
(かけづくり)」と呼ばれて繁
盛した。

「懸造りがけづくり」(この別
な言い方もあるように、川岸の
上や岸の上に小屋を建てたのが
始まりとか、誰だれの土地と
もはつきりしないから、無届け
で、元手も気にせず、気楽に店



懸造り跡

小屋掛けなどの気取らない商いが身土だった臨町の橋場
町かいわいたが、今は石碑も雪に埋もれ面影は少ない